

忘れないこと・続けること・進化すること

やっぺす通信

Vol.117

離れて
つながろう！

やっぺす通信は年4回発行しています。

2022.4.1 発行



うんめえもん応援団突撃インタビュー！ 応援ファイル No.93 株式会社木の屋石巻水産 代表取締役 木村 優哉 さん

「木の屋石巻水産(以下『木の屋』)」は1957年創業。自然豊かな石巻から朝獲れの魚を鮮魚のまま缶詰にする独自製法と、国産調味料を使ったシンプルな味付けで素材の味を大切に商品づくりを行っている会社です。今回は、代表取締役の「木村優哉」さんにお話を伺います。
(インタビュー: K2石巻スタッフ 菊澤史代)



左: 木村 優哉さん (以下敬称略) 右: スタッフ菊澤

菊澤) 本日は宜しくお願い致します。今年で東日本大震災から11年。震災当時の「木の屋」の様子を伺ってもいいですか？

木村) 今までに経験のない大きな揺れ。揺れがおさまったと同時に会社が海の近くにあるということもあって、津波も来るだろうと早い段階で社員も皆避難しましたが、あれほどの津波が来るとは正直思ってもみませんでした。震災から3日ぐらい経って、他の社員と会社を見に行った際には、工場は流され、本社も瓦礫で埋もれ、すべてのものが泥や重油まみれ・・・壊滅的でした。

菊澤) そんな中で再起しようと思えたのはなぜですか？

木村) 支援物資が何も届かない中、津波で流れてきた「木の屋」の缶詰を食べて頂くことで多くの人を元気にできたこと。また、鯖缶でまちづくりを行っている東京の「経堂」という商店街で泥まみれの缶詰をきれいに洗って「希望の缶詰」に生まれ変わらせて下さったこと。応援して下さる人がいたからこそ再起したいと思えました。

菊澤) ご苦労もたくさんあったと思いますが、それを乗り越えられた理由は何だったと思われますか？

木村) 震災時、私は木の屋に入社してまだ1年目。若かったです(笑)。だから、何も知らないからこそ「何とかして会社を復活させて見せる」との情熱で動けたと今は思います。後は社員が一丸となって諦めずに働いてくれたことも支えになりました。



現在の「木の屋」美里工場

菊澤) 話は変わりますが「木の屋」の企業理念にも「商品開発に全力を尽くす」とあるように、次々新しい商品が生まれていますが、そのアイデアはどこから生まれるのですか？

木村) 社員の思いついたものはまずは試して作ってみる。小さな会社なので、やりたい声があればすぐに動けます。固定概念にとらわれずにチャレンジすることを大切にしています。あといろんな企業さんからタイアップのお話を頂いたら、なるべく挑戦するようにもしています。

菊澤) 先月フジパンからスナックサンド「金華サバカレー」も販売されましたが、他におすすめの商品はありますか？

木村) この春新発売する「金華鯖レモン味」と「鯨ハンバーグ」の缶詰です。鯨ハンバーグは1個でかなりのボリュームのある商品に仕上がっています。ぜひ、食べて欲しいです。

菊澤) 社長に就任されて5年、今お仕事される上で大切にしていることは何ですか？

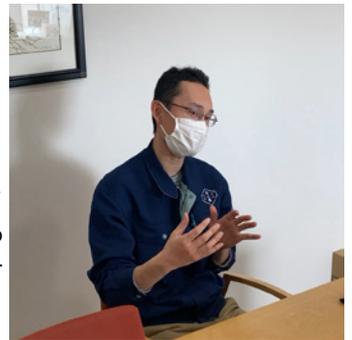
木村) 人の助けを借りる事です。昔は「自分で何とかする」と力んで、人の話も全く聞かずに突っ走っていました。そんな時に「もっと周りを信じて頼ってくださいよ」と言ってくれた社員がいました。その時に「はっ」と気づかされました。自分一人で出来る事なんて限界がある。社員100名いればそれだけの能力が使えて、みんなの知恵を借りれば、どれだけのことができるのか。人を頼ってこそチームが団結していくのを身をもって感じました。おかげでコロナや先日の地震等、自分たちが想像もできない荒波が次から次へとやってきますが、この団結力で乗り越えられているのだと思います。

菊澤) 今K2のメンバーの後藤君が働かせてもらっていますが、今迄もいろんな若者がお世話になってきました。

木村) たしかにいろんなタイプの子たちがいましたね(笑)。後藤君は非常にまじめで努力家。頑張ってくれています。生きづらさを抱えた若者がうちの会社に居場所を見つけて働き続けてくれることは嬉しいし、私たちも一人一人の力が発揮できるようなサポートはしたいと思っています。

菊澤) 最後に「うんめえもん市」のメンバーに一言お願いします。

木村) 今迄もいろんな方にご支援いただきましたが、こうやって震災を忘れずに今も続けてくださっていることがどれほど大変なことか。だからこそ、そのお気持ちが本当にうれしいです。これからもよろしくお願いします。



～東日本大震災から11年～

元スタッフが石巻で被災しているとの情報を聞き、私たちが避難所へ炊き出しに向かったのが震災の一か月後。あれから11年。石巻でのK2の活動も大きく変わり、現在13名の若者が共同生活をしながら職場や作業所に通ったり、また一人暮らしを始めたり...ここがメンバーにとっても新しい生活の拠点となっています。石巻の街もハード面では、地震や津波の被害から学んだ教訓を忘れないために震災伝承施設ができたり、津波被害の痕跡を残す震災遺構が整備されました。ソフト面では癒えない心の傷はあるものの、11年という歳月が経った今だからこそ当時の様子を語れるといった被災された方の話を聞くことができるようになりました。K2でも3月13日(日)、JGC横浜と一緒に東日本大震災記念礼拝を行いました。横浜・石巻をつないで行われた礼拝。石巻から地域の方々の元気な姿や声を皆様にお届けできる素敵な時間でした。区長の大槻さんより「いつまでも忘れないでいてくれること、石巻に拠点を構えて生活圏を共にしてくれていること、この過疎高齢地域で自分たちがどんどん歳を取っていく中、若者の声が聞こえることが安心につながっている。またみんなが元気になれるイベントなどを開催して地域を盛り上げてほしい。」と話がありました。「支援から支縁へ」震災からつながったここ石巻。11年でつながった様々な「縁」を支えに、「忘れないこと・続けること・進化すること」をテーマにこれからも進化し続ける石巻をお届けしていきます。

東日本大震災記念礼拝にて
(2022.3.13)



避難所での炊き出し(2011)



震災当時の門脇小(2012)



日和山から見る石巻(2012)



地域の方と一緒に芋煮会(2021)

～スタッフ&メンバーが今石巻で思うこと～

石巻に来て8年ほどが経ちますが、災害と隣り合わせで生きていることを実感しています。その間に地震で避難したのが5回。つい先日の震度6強の揺れにはさすがに身の危険を感じましたが、普段から避難訓練を行うなどいろいろ備えていることで、焦りも減り、メンバーやご近所の方々の安否を気にする行動ができました。もしK2にいなかったら、災害時人一倍動揺しやすい自分はどうしていたのか...。最近の楽しみは、地域の人と一緒にファームや養蜂をしたりお茶っこしたり、たまにはお酒を飲んで夜な夜な語り合うことも増えました(笑) これからもいろんな方に石巻を訪れてもらい、自分が地域の魅力を伝えて行けたらと思っています。



青山卓司さん



後藤泰志さん

今は「木の屋石巻水産」で仕事させてもらっていますが、ここまで続けられているのがうれしいし、今では新しい仕事も任せてもらえるようになったので、もっと頑張りたいと思っています。今は月に一度のお茶っこ礼拝が楽しみ。地域の方との交流ができるのは横浜ではできなかったもので、ぜひJOBキャンプで来るメンバーにも味わってもらいたい。

石巻に来て仕事が決まり、毎日の出勤時に地域の方が声をかけてくださったり、見守ってくださってるのがうれしい。ここに来て4年ですが、みなさんに受け入れてもらって石巻の人間になった気がします(笑)。趣味の暮も始めて、最近は暮会所に行ってみました。みなさん初心者の僕にもとても丁寧に指導してくださるのがうれしいです。優しい人も多く、海の幸の美味しい石巻。今はここから見えるきれいな星を皆さんにも紹介したいです。



菊池啓明さん

2022年度 うんめえもん市 開催スケジュール

(4月)		(5月) ※...物産のみ	
7日(木) 南区役所	10:00~16:00	6日(金) 南区役所(※)	10:00~16:00
12日(火) 都筑区役所	10:00~16:00	16日(月) 横浜市役所	10:00~14:00
14日(木) 磯子区役所	10:00~16:00	18日(水) 都筑区役所	10:00~16:00
18日(月) 横浜市役所	10:00~14:00	26日(木) 磯子区役所	10:00~16:00
(6月)			
20日(月) 横浜市役所	10:00~14:00		
23日(木) 都筑区役所	10:00~16:00		

右記QRコードからLINEの友達登録をして頂くと、開催日の告知やお得なおすすめ商品、開催場所等がいつでも確認できます。是非ご登録下さい。



～K2石巻だより～



今年も石巻のミツバチは無事に越冬出来ました!

★予定は変更されることがあります。